



2021年6月10日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし  
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19  
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386  
清瀬事業所/ふわつとん  
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18  
TEL&FAX:042-497-9481  
<http://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

この日はペットボトルで  
ボーリング。  
何本倒れるかな？



新しい価値が  
生まれるとき

理事長 苅部 一夫

コロナ禍で人の心も経済も大きな痛手を受けています。しかし、一見悲観的な状況の中にあるにもかかわらず、目を見張る新しい価値を生み出している人々がいます。そのいくつかをご紹介します。

これまで廃棄していた樹木片を薬品と高熱で処理することで、自在な成型ができるという技術です。自在に成型できるので、この技術を使えば、将来食器や家電、自動車内装などのプラスチック部品のほとんどが木に置き換えることができると言えます。脱プラスチックという世界的な動きの中、革新的な技術です。

目から鱗が落ちる技術はまだあります。それは、夢のような撥水処理技術です。布に施せば全く水を通さなくなるので、濡れない汚れない服になりますし、紙に施せばプラスチック製の食器や容器を自然由来の材料に替えていくこともできると言えます。

さらに、「ハイブリッド氷」なるものは、35%の食塩水だけで作った氷です。これを砕いた氷の中に、採ったばかりの魚を浸せば、たった数十秒で凍らせることができ、しかも、解凍しても味が落ちない。冷凍機械もいらないので、食料の長期保存、長距離輸送などを大きく変え、「脱炭素」や「フードロス」「エネルギー」「環境」にかかる地球規模の課題(SDGs)を一気に解決する技術革新になる発明だと言われています。

どの発明も身近な素材に着目した技術です。しかも皆、日本人によるアイデアだと

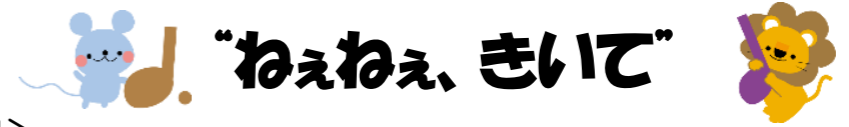
いうからもっと驚きです。日本は、コロナのワクチン製造に遅れをとっていますし、世界を席巻するIT企業にも追いつけていません。しかし、町工場のなものがづくり技術は、日本のお家芸とも言われ、世界には真似できない精密で高度な丁寧な製品をつくるアイデアが沢山あることを知りました。

「SDGs」という言葉をよく耳にします。これは、国連総会で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」のことで、「食料」「環境」「貧困」などの17の課題を2030年までに達成しようとする取り組みです。

地球規模で新型コロナウイルス感染やSDGsの解決すべき課題が沢山あります。こうした時代にあつて、私たちに困難を突き付けられているときや、目の前にある課題を解決しなければならぬときこそ、新しい革新的な知恵と技術が生まれるのだと改めて気づかされます。

例年六月には、作年度の事業・決算報告をさせていただいております。昨年度を振り返るとコロナの感染リスクの中にあつて、ご利用者様、ご家族様には様々な面でご不便をおかけしました。しかし、だからこそ職員はご利用者様のことをより深く理解しようとし、思いに寄り添った支援も随所に見られました。大きな革新でなくとも、身近にある小さな課題にしっかりと向き合い、それを解決していく職員の姿にほっこりした気持ちになりました。

写真についてはご本人(代理人又は成年後見人)の同意を得て掲載しております。



<小畑 満月>

(洗濯物たたみの場面で・・・)

私は、自宅では洗濯物畳みは一切しなかった。こぶしに入って利用者さんが一生懸命に畳んでいる姿にハッとさせられ、自宅で洗濯物を畳むよう心がけるようになった。

(募金する?しない?)

ある利用者さんとコンビニへ買い物に出かけたときのことである。店内の床に100円玉が落ちていたのだが、利用者さんはその硬貨を拾って募金箱へ寄付をした。あなたならどうする?

## キラリ☆と光るこの一枚



新しい仲間を迎える大事な日。ドキドキの司会ふたりともお疲れ様でした!  
(山賀)



素敵なこいのぼりができたよ!  
(花岡)

## 大学3年生→こぶし3年生

私は大学3年次の夏、1ヶ月間の福祉実習を行いました。実習中、「支援者としての気持ち」の他に「私という一人としての気持ち」を意識する自己覚知の難しさと向き合っていました。両者の気持ちの間で葛藤が生じて、利用者さんへの声掛けや関わりが上手くいかない時もあり、不安や焦りでいっぱいの時もありました。しかし、利用者さん一人ひとりと向き合う中で、徐々に自分の気持ちを認め、支援者としてどうすべきかを考えるようになり、少し余裕をもって利用者さんと関わるようになっていきました。

こぶし3年生の今では、利用者さんと関わっている際に「今、焦っているな」「自分の都合や気持ちに、利用者さんを合わせてしまっていないかな」などと、自分の気持ちに向き合うこと、自分の支援を客観視することを習慣化するようにしています。実習中に悩み続けたことを、今後の自分自身の支援における強みとして活かしていきたいと思っています。

生活支援員 江島 響

## 印象に残す

新年度を迎え早いもので2か月が経ちました。年度初めに立てた支援や課の計画が軌道に乗ってきており、職員一丸となって新しい試みに挑戦している姿を見ていると、とてもワクワクした気持ちになります。

先日、支援者が利用者Aさんのできた！という瞬間のできごとを私に届けてくれました。Aさんはコミュニケーションをとることが難しく様々な場面で支障が出ていて、どうしたら充実した毎日が送れるだろうかと悩む日々でした。

何年もかけてコミュニケーションの支援を続けており、そのところどころで「いかに印象に残して貰えるか」という考えを大切にしてきました。もちろん1回で上手く行くはずはありませんから試行錯誤の日々で、低い高さの階段を一段ずつ上るように「できた」を積み重ねてきました。

以前あるジャーナリストが大学生の授業について「印象に残る授業は学ぶ意欲を引き出す」と言っていました。ああそうかと納得すると同時に、私自身もそうだったなと思ったことがありました。

私は今からでも習字教室に通いたいと思うほど(上手下手は別として)字を書くことが好きで、自宅でもひたすら文字を書き続けることがあります。どうして文字を書くことに興味があるのか？それは小学校の先生の授業のおかげだったと思います。

その先生は新しい漢字を勉強するために、じゃんけんをして勝者が書き順通りに一筆ずつ書き進めていくという「じゃんけん漢字大会」を国語の授業に取り入れていました。優勝者が貰えるトロフィーを目指して、書き順を覚えようと必死に勉強をした思い出があります。皆自分がトロフィーを貰うんだとその日は大盛り上がりで、私の中でも一番楽しみな授業でした。

皆さんはいかがでしょう？好きや学びたいことのルーツを辿ってみると、そこには良い印象が残っているのでは無いでしょうか。冒頭に紹介したAさんも印象的な支援者のかかわりや活動があったからこそ、やってみようかな？と興味を示してできた！のでは無いかと思います。

印象に残すことが興味関心や学びに繋がっていくと信じて、年度初めに立てた支援や課の計画が職員にとっても利用者さんにとっても、良い印象が残るようにしていきたいと思っています。

サービス管理責任者 坂口 麻衣子



## 相乗効果に期待大

新年度が始まり、早2か月。新たに仲間入りした2名の職員もトレーニングを経て、単独勤務が増えてきました。トレーニングを担当する先輩職員も新たに2名が加入し、今までよりも伝える機会が増え、改めて「支援とは何か・私たちの仕事とは何なのか」を考える場面が多いのではないかと思います。

あるブログの記事に「教わる側は勉強しなくては。でも、教える側はもっと勉強しなくては。」という一文がありました。教える立場の人は質問に対して返答出来るように引き出しを多く持っていることも大切だと思いますが、ただそれだけでしょうか？

新しい職員の悩みや意見に寄り添える姿勢のほうが大切なのではないかと私は思います。新たに挑戦するのは怖いものですが、周りの支えがあればどこまでも成長出来ると思っています。新しい人の感性でこぶしがさらにパワーアップするのが楽しみです。

生活支援員 新海 未姫

## ★「人生に喜びを！印象に残る行事にしよう♪」～行事紹介のコーナー～★

行事企画課では、利用者さんにとっても、支援者にとっても、印象に残る行事になるよう企画をたてています☆「あの時の行事は楽しかったよね～」「またやりたいな～」と言って貰えるようにアイデアを振り絞っています！



### ①最近の行事で一番印象に残っているものは？

お花見会です。コロナの影響により、こぶし館内でイベントを行いました。

### ②印象に残ったその場面は、どのような場面ですか？

ご利用者、支援者みんなで製作した手形の桜です。完成した物を二階から見えるように飾った時は、とても達成感がありました。

### ③目新しい斬新な行事企画をコッソリ教えてください。

今年度はコロナの影響で制限がありますが、その中でもできる事で行事を行っています。ご利用者、支援者共に印象に残るような行事を企画中です！！

### ④最後に…こぶしだよりを読んでいる方へメッセージをお願いします。

ピンチをチャンスに！！今しかできない事を見つけて楽しみましょう！！

(行事企画課 土橋 龍介)

## ★「日常をおもしろ・楽しく出来るのは私たち次第♪」～余暇活動紹介のコーナー～★

ボランティア余暇課では、利用者さんにたくさんの体験をして貰えるような企画をたてています。また、企画だけではなく、利用者さん一人一人に焦点をあてて「その人らしい余暇時間」が過ごせるように、時間に縛られない余暇が実現できるよう日々工夫を凝らしています！

### ①最近の余暇で一番印象に残っているものは？

ゲーム機を使ってボーリング！！「余暇の充実を図る為」とゲーム機を支援者から寄付していただきました。



### ②印象に残ったその場面は、どのような場面ですか？

皆さんピンが倒れると「やったー！」「わーい！」と言いながらガッツポーズをしていたところです☆

### ③これから考えている新たな余暇チャレンジはありますか？

おやつを買って公園で食べよう会をしたいと思っています！緊急事態宣言が解除され次第、行けるように計画していきます！

### ④最後に…こぶしだよりを読んでいる方へメッセージをお願いします

ご利用者はもちろん、支援者も余暇が楽しい！と思えるように取り組んでいきたいと思っています。お互いが笑顔で、「楽しいね」と言い合える余暇活動を考えていきます！

(ボランティア余暇課 佐藤 里胡)